

2018年8月26日(日)朝10:10  
8月第4共同主日礼拝式説教

主の聖霊降臨節第15 役員会等  
日本アライアンス庄原基督教会

## 説教題：主なる神の恵みのいのちの生活

聖書：ヨハネの黙示録 22章1～5節

＜口語訳＞

新約聖書408頁

ヨハネの黙示録 22章1～5節

＜新共同訳＞

新約聖書479頁

ヨハネの黙示録 22章1～5節

＜新改訳第3版＞

新約聖書501～502頁

ヨハネの黙示録22章1～5節

＜塚本訳＞

新約聖書823頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による  
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、  
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讚美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獣の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獣と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讚美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬り、21章は、花嫁と3つの聲、新婦・都の形成と生活の啓示です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第22章1～5節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録22章1～5節；ヨハネは、新婦・新しいエルサレムの生活基盤の啓示を見ました。

◇21:9～27；塚本訳；新しきエルサレム

- 「1 天使はまた神と仔羊の玉座から(流れ)出ている水晶のように輝いた生命の水の河を私に示した。
- 2 都の大通りの真中と河の此方彼方に生命の樹があって、(一年に)十二度実を結ぶ、すなわち月毎に実が生るのである。そしてその樹の葉は諸国の民(の凡ての病と傷と)を医す。
- 3 最早凡ての呪詛が無いであろう。そして神と仔羊の玉座が都の中にあって、その僕達は(其処で)彼に仕え、
- 4 (おおけなくも目のあたり)御顔を拝し、その御名が彼らの額に(書いて)あるであろう。
- 5 また(昼夜の別が消え失せ)最早夜が無いであろう。(其処では)燈火の光も太陽の光も

必要がない。主なる神が彼らを照らし給うから。そして彼らは永遠より永遠に王となるであろう。

◇1節; 「最後の七つの災厄が盛られた七つの鉢を持つ七人の怒りの天使」が、「神と仔羊の玉座から(流れ)出ている」、「水晶のように輝いた生命の水の河」を「私に示した」と、ヨハネは、記しています。

⇒次に、**神の都**には、「**神と仔羊の玉座から(流れ)出ている**」、「**水晶のように輝いた生命の水の河**」があることを、ヨハネに示し、「**生命の水の河**」は、「**神と仔羊の玉座**」を源流にしていることを知らされます。

⇒いつも申しますが、すべては表徴的なことです。ヨハネの思いを想像すると、天地万物が創造され、人間がエデンの園に置かれた状況を思わされます。

⇒エデンでは、4つの河であり、源流は示されていません。エゼキエルが見た幻の都でも、河の源流は、神殿でしたから、「**生命の水の河**」は、全く新しい幻であることが分ります。

⇒「**神と仔羊なる主**」が、「**天の都の生命**」です。

◇ 2～4節；「都の大通りの真中と河の此方彼方に生命の樹があって、(一年に)十二度実を結ぶ、すなわち月毎に実が生じ」、「その樹の葉は諸国の民(の凡ての病と傷と)を医し」、「神と仔羊の玉座が都の中にあつて、その僕達は(其処で)彼に仕え」、「最早凡ての呪詛が無い」、そして、人々は、「(おおけなくも目のあたり)御顔を拝し、その御名が彼らの額に(書いて)ある」と、「神のご配慮」が見られます。

⇒「**神の都**」でも、病気になる人々があるのかと、不思議に思うでしょうが、「**生命の水の河**」によって生かされていることが語られているのです。

⇒「**最早凡ての呪詛が無い**」が、ここでの大事なメッセージです。私たちの心は罪に支配されていますので、「**呪詛**」で満ちています。

⇒「**互いに祝福しあう**」ことができないのが、肉体を抱えている私たちの現実です。そのことで自分を責める必要がありません。寧ろ、そのような私たちを主は無条件で愛して下さっていることに信仰の目を向けたい。

◇5節；「(昼夜の別が消え失せ)最早夜が無いであろう。(其処では)燈火の光も太陽の光も必要がない」、「主なる神が彼らを照らし給うから」、「彼らは永遠より永遠に王となる」と、**神の都**では、「主なる神が彼らを照らし給うから」、「彼らは永遠より永遠に王となる」と、宣言されているのです。

⇒「**主なる神が彼らを照らし給うから**」、「**彼らは永遠より永遠に王となる**」が、**神の都**に入る者の姿です。

⇒マルチン・ルターが、キリスト者の2つのテーゼ(提題)を掲げ、①「キリスト者は、すべて奴隷である」が、②同時に、「キリスト者は、すべて王である」と、語ったことが、**天の神の都**で実現するのです。

⇒「**神の都**」の「**真の王**」は、「**神と仔羊なる主**」で、私たちは、**神の栄光**を受けて(**主なる神が彼らを照らし給うから**)、「**永遠より永遠に王となる**」のです。権力者ではなく、**神の栄光**のため、**神の平和**に生きる**王**なのです。

⇒この世では、サタンが、闇の王で、政治でも、経済でも、悪の支配が横行したのです。

## 結論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」、神の御子イエス・キリスト様が、長老・使徒ヨハネに啓示の「神の国の奥義」、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代の事。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、御子の再臨信仰と愛、2章～3章は、7教会への手紙、4～5章は、羔羊礼拝、大讚美、6～13章は、聖徒、天使と龍、獣との戦い、14章は、小羊への大讚美、神無視の人々の裁きと信仰者への忍耐、15章は、金の怒りの鉢の神の裁き序曲、16章は、金の鉢の用意命令、獣の座の暗黒の裁き、ハルマゲドンでの龍と獣と主なる神との決戦、バビロン滅亡預言で、17章は、大淫婦と権力者の癒着、仔羊の勝利、18章は、バビロンの滅亡宣言と哀歌、19章は、大群衆讚美・長老らの礼拝、仔羊婚姻への花嫁の招き、神の大宴会、ハルマゲドンでの神の大勝利、20章は、サタンの千年間の幽閉、殉教者らの復活、千年間王座、サタンの滅亡、死と陰府の葬り、21章は、花嫁と3つの聲、新婦・都の形成と生活の啓示です。

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネ黙示録22章1～5節は、「**新しいエルサレム**」の**生活基盤**は、「**神と羔羊の光・栄光**」中心で「**諸国の民が携えて来るのも、自分の栄光と誉れ**」ですが、「**主なる神が彼らを照らし給うから、彼らは永遠より永遠に王となる**」と宣言されていますように、「**神の生命によって平和のために互いに仕えあう永遠の王**」とされることなのです。
- ⇒**神の都の中央**を「**生命の水の河**」が流れ、傍で生きる人々を充足させるばかりか、「**永遠より永遠に王**」という役目が、**神の都の人々**に与えられるのです。
- ⇒サタンが、この世の闇の王であった時には、すべては欲望中心でした。経済大国が、お金にもものを言わせて、あらゆる技術者たちさえ、自国の繁栄と権力の基盤を強化するため、利用しています。
- ⇒現在の社会主義国では、自分たちの義だけが正義で、他国の義は、認めません。公正な政治はなく、公正な義を求める人々は抑圧されるのです。**神の都は、神の義の国**です。